

科目名	日本文学（上代・中古）					単位	2.0
担当教員	大脇 由紀子						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	3220

●授業のテーマ

奈良時代・平安時代の文学を知り、日本文化について考える。

●到達目標

上代・中古の作品などを通して、当時の社会状況なども鑑みながら、人々の考え方や表現の方法を読み取り、上代文学・中古文学がどのようなものかを見通すことを目指す。また枕詞や掛詞といった修辞など和歌的表現技巧についても修得する。

●学習内容(授業概要)

中国・朝鮮からの文字の伝来によって日本人は「記録」することを知る。漢字という外来文字を、古代の日本人はどのように「やまとことば」として身につけていったのかを考えていく。『古事記』『日本書紀』では、神話の世界から歴史を記すことへの過程を、文体や書かれた内容から学ぶ。また、そこから連続するものとして平安期の物語を読む。その日本的思想は現代の日本文化、特にアニメの文学性にも繋がっている。

また『万葉集』では、奈良時代の人々の生活や考え方、表現の方法を考察することによって、作品読解を深めていく。さらに『万葉集』『古今和歌集』から主に東海地方に関わる作品を選び、精読する。歌の解釈と鑑賞を深めるとともに、和歌の題材とされた東海地方の名所旧跡にふれ、郷土の文学の知識を修得する。

●学習内容(授業計画)

《前期》

1. オリエンテーション
2. 漢訳仏典と上代文学
3. 「千と千尋の神隠し」から学ぶ話型
4. 『日本書紀』黄泉国訪問説話
5. 『古事記』スサノオの貴種流離説話
6. 『風土記』仏教の牛頭天王、祇園祭
7. 『竹取物語』と羽衣伝説・浄土信仰
8. 『伊勢物語』東下りと参河国の国分寺・国分尼寺
9. 『源氏物語』光源氏須磨流謫(るたく)
10. 『万葉集』額田王・麻績王の流離
11. 『万葉集』柿本人麻呂・山部赤人
12. 『万葉集』大伴家持・防人歌・東歌
13. 『万葉集』『古今集』の歌枕（尾張・参河）
14. 『万葉集』『古今集』の歌枕（伊勢・美濃）
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

毎時間最後に、次回講義する作品のプリントを配布する。参考文献などを用い、現代語訳しておくこと。

●成績評価方法・基準

筆記試験 70%

授業に対する積極性（小レポート含む） 30%

●テキスト（必携）

書籍名 『万葉 文学とその背景 改訂版』

著者 加藤静雄・村瀬憲夫・廣岡義隆・佐藤隆・竹尾利夫・島田修三 編

ISBN 9784273022976

出版社 おうふう 販売先 生協

●参考文献／その他

『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』『古今和歌集』などのテキストは、新編日本古典文学全集（小学館）、新日本古典文学大系（岩波書店）、新潮日本古典集成（新潮社）など、適宜用いるとよい。

折口信夫『古代研究』第二部 国文学篇を読んでおくとよい。

●履修上の注意

特になし。